

今を輝く人に聞く

9

まちひと ZOOM!!

高山植物や池塘が広がる吾妻連峰最大の湿原、弥兵衛平。ここの植生回復事業を行う「ネイチャーフロント米沢」の代表が青柳和良さんです。「人が踏み歩いたことで荒れた弥兵衛平。その環境を保全するため、平成12年に県が事業を開始しました。それを引き継ぐ形で平成16年に他の有志と共にこの団体を立ち上げました」と青柳さんは言います。

青柳さんたちは、夏から秋に採取した種を10月初めごろに蒔いて、風雨で流されないよう緑化ネットなどで覆う作業をしています。「県が主導した当初は、芽が出ても2〜3年で枯れてしまいました。そこで私たちは、他の湿原との環境の違いを調査。弥兵衛平が吾妻の中でも雪解けが早い
ため、霜や夏の乾燥などの影響を受けやすいことを突き止めました」。青柳さんたちは弥兵衛平の地点ごとでも変わる環境要因に注目し、方法を工夫しながら種を蒔く面積を増やしていきました。

今後は弥兵衛平の保全に加え、福島との協力して西吾妻山周辺の植生回復も手掛けたいと言います。また、山地の湿原の特殊性を理解するため、

弥兵衛平湿原の植生回復事業を行う

あおやぎ かずよし
青柳 和良 さん (吹屋敷町)

[Profile] 元高校教師。生物クラブの顧問になり、生徒と共に吾妻連峰の植生を研究。現在83歳、ネイチャーフロント米沢の代表を務める。

この環境を守り続けたい
吾妻の山々と植物が好き



低地の湿原や里山など他の生態系の観察も続けたいと考えています。「私は吾妻の山々と植物が好きです。壊れた生態系を完全に元に戻すことはできませんが、崩壊を食い止め、バランスの取れた回復過程にのりきつかけ作りを続けたいと思います」。

<インターンシップ生が取材・編集しました>

カメラを使ったりインタビューしたり初めてで緊張しました。貴重な体験ですごく濃い時間を過ごせました。(米沢商業高校2年 沼田 滯奈さん)



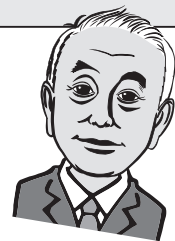
昭和42年8月28日から29日にかけて、山形県と新潟県下越地方を集中豪雨が襲いました。「羽越水害」と呼ばれるこの災害で、県内の死者8人、負傷者137人、流出家屋192戸、床上・床下浸水1万4269戸の被害に見舞われました。米沢でも松川に架かる芳泉町の橋が流され、巡回中の消防団員がお亡くなりになりました。堀立川が氾濫し、多くの家屋が浸水した様子を今でも覚えています。

雨が九州北部を襲いました。かつてない豪雨が山を削り、木をなぎ倒し、流出した土砂によって家屋は壊され、多くの人命をも奪いました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。最も被害を受けた朝倉市は、江戸時代、第4代米沢藩主であった上杉綱憲公の娘・豊姫が嫁ぎ、上杉鷹山公の母親の実家にあたる筑前秋月藩黒田氏の城下町でした。上杉家との縁も深く、1日も早い復旧を願っております。

このような災害は、いつでもどこで起こるか分かりません。羽越水害から50年、記憶は遠のいていますが、河川改修、土砂災害危険箇所所周知、避難指示のあり方などについて、今後でも取り組んでいかなければなりません。防災意識の高揚にご理解、ご協力をお願いいたします。

米沢市長 中川 勝

おしょうしな
よねざわ



今月のはなし
羽越水害から50年
～防災意識を高めよう～